

学展-268

矯正患者における歯面清掃指導が口腔内環境に及ぼす影響—電子歯ブラシを用いた検討—

Changes of oral environment of orthodontic patients by TBI-Deliberation with electric toothbrush-

藪中 友絵¹、福岡 裕樹¹、田中 敬子²、小林 宏明²、森山 啓司¹

YABUNAKA T., FUKUOKA H., TANAKA K., KOBAYASHI H., MORIYAMA K.

¹東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野、²東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野

【目的】一般的にマルチブラケット装置を用いた矯正治療では、口腔内環境を良好に保ち、二次的な歯科疾患を予防することが必要であり、その手段としてブラッシングによるセルフケアが重要な役割を担う。口腔内環境評価の指標として、リアルタイム定量 PCR 法による唾液中の細菌数の測定等を用いた包括的な評価が、集団検診時や歯周疾患の患者に用いられているが、矯正治療中の患者に対して同様の手法を適用した報告は未だない。本研究では、微少電流による細菌の歯面吸着の阻害を目的に開発された、電子歯ブラシを用いて、矯正治療中の患者にブラッシング指導 (TBI) を行い、口腔内環境の変化について評価した。【資料および方法】当院矯正歯科外来にて、マルチブラケット装置にて治療を開始し、レベリングが終了した 19 名 (男性 7 名、女性 12 名平均年齢 28.5 歳) を対象とした。すべての被験者に対し歯科医師が TBI を行った後無作為に分類し、電池内蔵 (以下実験群) または非内蔵 (以下対照群) の電子歯ブラシを、歯磨剤不使用下で 3 週間使用させた。診査項目は、1) 細菌数検査、2) Plaque Index、3) Gingival Index、4) ポケット検査、5) BOP とし、TBI 前 (T0)、TBI 後 3 週間 (T1) において計測を行い、統計学的検定には Wilcoxon 順位和検定を用いた。(p < 0.05) 【結果および考察】T0 においてはすべての項目で 2 群間に有意な差は認めなかった。一方 T0 - T1 間においては、対照群では改善傾向を認めるものの有意な差を認めなかったのに対して、実験群では 1) ~ 4) の項目において有意な差を認めた。よって矯正治療中の患者において、包括的な口腔内環境評価が有用である可能性が示され、また TBI と電子歯ブラシの併用が口腔内環境の向上に寄与すると考えられた。【結論】TBI と共に電子歯ブラシを用いることは、矯正治療患者の口腔内環境の改善に有用である可能性が示唆された。